

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
香川大学

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人香川大学	特別支援学校	知的障害	かがわだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう 香川大学教育学部附属特別支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成31年4月	第1回実施検討会議 (二年次研究方針)	検討記録
令和元年6月	第1回研究授業・討議	指導・助言記録
7月	第2回実施検討会議 (実態把握・教育課程検討)	検討記録
8月	夏季研究集会	指導・助言記録
9月	特殊教育学会参加・ポスター発表	参加報告
11月	実態把握 (S-M社会生活能力検査)	分析・考察
12月	公開授業研究会・討議	指導・助言記録
12月	実践研究現職教育 (外部講師)	指導・助言記録
12月	実態把握 (Vineland-II 適応行動尺度)	分析・考察
12月	実態把握アンケート調査 (保護者・教員)	分析・考察
令和2年2月	県外実践校視察	参加報告
2月	二年次研究のまとめ	検討記録
2月	第3回実施検討会議 (次年度教育課程・次年度研究計画)	検討記録

(2) 研究課題

知的障害特別支援学校における児童生徒に育てたい力に基づいた指導内容に関する研究

(3) 研究の概要

カリキュラム・マネジメントを進めるに当たって、指定校に在籍する児童生徒に育てたい力を育成するための指導内容の検討を行うために、次に示す取組を行った。

1 実態把握を生かした個別の指導計画の作成の検討

児童生徒の社会適応能力の状態を把握するため、今年度もS-M社会生活能力検査とVineland-II適

応行動尺度を実施した。分析結果を基に、指定校児童生徒の全体的傾向を検討するとともに、個々のデータから個別の指導計画の実態把握等に活用するための様式の検討を行った。

2 「知的教科目標・内容表」等を活用した学部間の学習内容の系統性についての検討

新学習指導要領で示された知的障害教科の目標・内容表を基に、指定校独自に小学部3段階・中学部2段階・高等部2段階を並列して整理した「知的教科目標・内容表」を作成した。年間指導計画作成において活用し、学部間の系統性を考慮した学習内容の検討を行った。

3 児童生徒に育てたい力を育成するための指導内容及び学習評価方法の検討

各学部の研究授業を通して、児童生徒に育てたい力と指導内容との関連や学部間の系統性等について学部を越えた縦割りグループで討議し、教科等横断的な視点で検討を行った。また、単元計画や学習評価、支援改善をするための方法について検討した。

4 指定校研究に関する情報収集及び情報発信

先進校の視察を行うとともに、学会や公開授業研究会を通じて指定校の取組を発信した。

(4) 研究の成果

二年次研究の取組により、以下の成果が見られた。

1 実態把握のためのアセスメントとして実施したS-M社会生活能力検査及びVineland-II 適応行動尺度の結果を指導に生かすために、個別の指導計画の様式を再考することができた。

2 昨年度研究で指定校独自に作成した「知的教科目標・内容表」に高等部の内容を加えた一覧表や、内容の項目を整理した「学習内容表」の試案を作成することができた

3 全学部同じ教科で研究授業を実施し、縦割りグループで授業検討・討議会を行うことで、各教員が他学部の取組を知り、学びのつながりを意識した視点をもつとともに、「単元計画・評価シート」や「学習評価・支援改善プロセスシート」の試案を検討することができた。

4 県外実践校の研究発表会や学会に参加することにより、先進的な取組についての情報収集を行い、全教員で共有することができた。また、特殊教育学会のポスター発表や指定校での公開授業研究会を通じて、指定校の研究の取組を広く発信することができた。

(5) 課題と今後の方策

二年次研究において、研究授業を通じて、各学部間の系統的な指導内容や学習評価の方法について方向性を見出すことができた。今後、全ての授業での実践を通じて定着を図るとともに、評価を教育課程の改善に結び付けていくサイクルの確立を図るという課題がある。

そこで、最終年次である三年次研究では、以下のことに取り組む。

1 個別の指導計画と育てたい力、学習評価の関連性の検証

授業後の学習評価や育てたい力の評価を個別の指導計画の評価に位置付けるための様式や記載方法の検討を行う。

2 教科の学習内容表の作成と年間指導計画の整理

指定校で作成した「知的教科目標・内容表」や「学習内容表」の試案を基に、より簡略化して小・中・高のつながりが明確になる「学習内容表」を作成して活用する。また、指定校の年間指導計画の様式を見直し、新学習指導要領の領域・段階を明示した様式への整理を行う。

3 指定校における評価を改善につなぐPDCAサイクルの確立

単元評価や個別の指導計画の評価・改善を教育課程の評価・改善につなぐための指定校独自のPDC
Aサイクルについて検討し、確立を図る。